



◆大学で心理学を学んでいます。子どもの成長や発達に関する活動をしたくてボランティアになりました。いるか家に行くと、いつもあっという間に時間が経ちます。子どもたちはすぐに遊びを思いついたり、みんなで協力しあったり、周りをよく観察していたりと毎回驚かされます。子どもの発達ってすごい！進路に役立つかも？と思って始めたボランティアですが、今では自分のいやりにもなり、新鮮な気持ちになれて楽しいです。（ASさん学生ボランティア）

◆いるか家は子どもはもちろん、大人にとっても居心地が良く、笑顔が絶えない居場所です。子どもたちと一緒にぬり絵をしたりゲームをしたり、大人顔負けのゲームが強い子たちと日々楽しんでいます。孤食になりがちな昨今、ごはんを作りみんなでおしゃべりをしながら食べるご飯もとても素敵な時間です。何より、一緒に活動するメンバーがとてもいいのです。相談してアドバイスをもらったり、座談会や外部イベントと一緒に参加したり、日々新しい知識と刺激を受けています。この素敵な場所が永遠に続くよう、少しでも興味を持ってもらえたなら、サポーターとして活動に参加して頂けると幸いです。素敵な出会いが増えますように。（Aさん社会人ボランティア/参加者）



◆もともと心理学に興味があって、人の心に寄り添うボランティアができればとネットで検索しているか家を見つけた。「世の中の垣根を減らす」「自分の気持ちをそのまま認める」「他者との違いを認めて尊重する」というコンセプトに惹かれた。学校に通っていた時、とても生きづらかった。重視されるのは一人一人の個性ではなく、いかに集団に適応できるのかということ。引っ込み思案な私はいつも集団に適応することに精一杯だった。その後、海外でのボランティアを通して新しい自分を知り、互いに認め合える環境がいかに自分に影響を及ぼすかを知った。いるか家でボランティアすることで、多くの人たちが安心できる環境を手に入れられたらと思う。安心できる居場所があることは大きな勇気になる。また、私のようにマイノリティーが語る場を設けることで、同じような悩みを持つ人と会える機会にもなるだろう。いるか家には人の温かさを再確認する場所になってほしい。

(座談会で不登校について語ってくれたYuiちゃん)

◆「ちがいをちからに」シリーズの座談会に参加しました。里親の方や不登校経験のある方のお話を聞きして、自分が知っていたことはほんの一部であり、当事者の方々はさまざまな思いや深い経験をしながら日々を過ごしているのだと感じました。自分だけでなく、周りの人たちがどうしたら生きやすくなるのかを考えるきっかけになりました。いるか家に来る子どもたちは、そこで出会う友だちとの関わりを通して、自分を大切にする気持ち、相手を大切にする気持ちを学んで心も体もぐんぐん成長していくのだと感じます。自分が小さい頃に近所にあったら毎日通いたかった、そんな素敵なか所です。

(Yさん社会人ボランティア/参加者)